

北見工業大学学報

第251号 (2012年5月号)

目 次

入 学 式	平成24年度入学式を挙行……………	2
告 辞	平成24年度入学式告辞……………	3
入 試	平成25年度編入学学生募集要項の公表……………	6
	平成25年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表……………	7
研 究 助 成	平成24年度共同研究の受入状況……………	9
	平成24年度受託研究の受入状況……………	10
	平成24年度奨学寄附金受入状況……………	10
人 事	人事異動……………	11
受 賞	社会環境工学科、中村大准教授が資源・素材学会奨励賞を受賞……………	22
	大学院博士前期課程修了生、武知孝洋君が砥粒加工学会賞論文賞を受賞……………	23
	社会環境工学科、高橋修平教授が北海道新聞エコ大賞を受賞……………	24
諸 報	文部科学省「情報ひろば」に出展……………	26
	国立大学図書館協会北海道地区協会総会を開催……………	27
	社会連携推進センター推進協議会の総会を開催……………	28
	平成24年度構内美化作業の開始……………	29
	オホーツク「木」のフェスティバルに参画……………	30
日 誌	4月・5月……………	31

= 入学式 =

平成 24 年度入学式を挙行

(総務課)

4月5日(木)、平成24年度入学式が午前10時から北見芸術文化ホールで行われました。

学部433人、学部編入学11人、大学院博士前期課程122人及び大学院博士後期課程3人に対して、鮎田耕一学長が入学許可した後、告辞を述べ、続いて塚本敏一北見市副市長、永田正記大学後援会会長、近藤和雄学生後援会会長から祝辞がありました。

更に、入学生を代表して、バイオ環境・マテリアル系の猪狩琴音さんから、今後の誓いを込めた力強い宣誓があり、式は無事終了しました。



入学生代表宣誓

なお、入学者数は次のとおりです。

学部

系列名	入学者数(人)
機械・社会環境系	168
情報電気エレクトロニクス系	146
バイオ環境・マテリアル系	119
合計	433

学部編入学

学科名	入学者数(人)
機械工学科	2
社会環境工学科	4
電気電子工学科	1
情報システム工学科	1
バイオ環境化学科	1
マテリアル工学科	2
合計	11

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械工学専攻	40
社会環境工学専攻	15
電気電子工学専攻	17
情報システム工学専攻	10
バイオ環境化学専攻	17
マテリアル工学専攻	23
合計	122

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	1
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	1
医療工学専攻	1
合計	3

= 告辞 =

平成 24 年度入学式告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

北見工業大学の教職員、学生を代表致しまして、私たちの大学の一員となった皆さんの入学を心から歓迎します。

また、これまで皆さんを育て、温かく見守って来られたご家族の皆様にもお祝いを申しあげます。

本日は、多くの関係者の方々にご出席いただきました。入学式に例年利用していましたが、北見市民会館が改修工事のため、昨年を引き続き、この芸術文化ホールを会場に致しましたが、市民会館に比べ手狭なため、ご出席の皆様方には別室で映像を通しての式典になりましたこととお詫び申し上げます。

本日はご多用にもかかわらず、北見市副市長の塚本様、大学後援会会長の永田様、学生後援会会長の近藤様にご臨席を賜り、入学式を挙行できますことに感謝申し上げます。

入学生の皆さんが住むことになった北見市の周辺には四つの国立公園が日帰り圏内にあります。西に「大雪山」、南に「阿寒」と「釧路湿原」、東に世界自然遺産に登録された「知床国立公園」です。

皆さんはこのような豊かな自然環境のなかで、これから希望にあふれた大学生生活を送ることになります。

さて、今日は入学した皆さんに対する北見工業大学のサポート体制と本学の特色について紹介致します。

皆さんの中には、大学に入学しこれからの勉強や生活に不安を感じている人もいます。何か不安なこと、分からないこと

があったら皆さんの先輩たちが「ピア・サポーター」として相談に乗ってくれます。

さらに1人の先生が5人程度の皆さんを担当する個別担任制をとっており、迅速できめ細かな指導を行っていますので、先生にも遠慮なく相談してください。

このようなサポート体制に加えて、友達同士の率直な会話の中で様々な悩みの解決の糸口が見つかることもあるでしょう。ぜひ信頼のおける友人を作ってください。



本日は大学院へ進学する皆さんの入学式でもあります。

大学院生の皆さんのほとんどは本学からの進学ですので、もう北見での生活にはすっかり慣れていることでしょう。

博士前期課程に入学した皆さんは、急速に進歩発展している科学技術の世界で、学士課程で培った基礎学力を基に応用的な専門の勉強をし、専門技術者を目指してください。

博士後期課程に入学した方は、指導を受ける先生の下でその分野で優れた研究業績をあげ、高度専門技術者あるいは研究者として巣立つことを期待しています。

また、今年も中国、マレーシア、韓国、モンゴルなどからの留学生が学部や大学院に入学しています。本学の「国際交流センター」では、留学生の皆さんのために親身になって

世話をしてくれる教職員がいます。加えて世界 8 か国から 80 人もの先輩留学生在籍しています。悩み事を相談して、1 日も早く日本、そして本学での生活に慣れることを祈っています。

このように本学では皆さんが安心して勉学や課外活動に集中できるように様々なサポート体制を整えていますので、今日午後からのガイダンスでその内容について詳しい説明を受けてください。

次に皆さんが入学した北見工業大学の特色について紹介をします。

大学の使命は大きく 4 つに分けられますので、それぞれについてお話をします。

1 つ目は教育についてです。

北見工業大学は技術系の大学ですからその教育目標は明快です。本学では、皆さんが将来技術者として自立できるよう基礎的な教育をしっかり行った上で社会に送りだします。

加えて大学院生には、本学ならではの特色ある研究を指導します。

皆さんもそれに応えるよう意欲を持って勉学に励んでください。

学部入学の皆さんはこれまで生徒と呼ばれていましたが、今日からは学生に変わります。生徒とは「教育を受ける者」であり、学生は「学ぶ者」で、言葉だけでなくその意味するところが全く違います。

大学生は社会人と比べれば自由な時間をとりやすい恵まれた環境にあります。自らの意思で学ぶために大学に入学したと見なされているのですから、自らをコントロールし勉学に励まなければ上の学年に進級できない留年の憂き目を見ます。気を緩めずに勉学に励むとともに教養も身につけてください。

2 つ目は研究についてです。

学部新入生あるいは編入生の皆さんが研究に携わるのは 4 年次に進級してからになりますが、今日は東日本大震災による東京電力福島第一原発事故に伴い大きな課題となっているエネルギーに関する本学の特色ある研究の一例を簡単に紹介します。

本学ではもともとソーラーエネルギーに関する研究に取り組んで来ていますが、近年では燃える氷と呼ばれ次世代のエネルギーとして期待されているメタンハイドレートの生成過程をオホーツク海やロシアのバイカル湖などをフィールドに研究しています。そのほか風力や地中熱など自然エネルギーに関する研究にも力を入れています。

学部入学の皆さんがこれらの最先端の研究に本格的に取り組むためには大学院へ進学することも選択肢の 1 つになります。国立大学の工学系の分野での大学院への進学率は 5 割を超えており、進学する学生は決して特別ではなく、企業も大学院修了生を優先して採用する傾向にあります。皆さんが社会に出てから求められる分析力や判断力をより高めるためにも大学院進学を勧めます。

3 つ目は、地域貢献についてです。

北見工業大学では研究成果の還元をはじめとして様々な分野で地域への貢献をしています。

本日 500 人あまりの入学生を迎えています。皆さんがこの大学に入学し、この町で生活することそのものが大きな地域貢献となっています。本学の学生や教職員が北見市で生活することによる経済効果は、毎年 60 億円から 80 億円と試算されています。北見市の年間の一般会計予算は約 600 億円ですから、本学がこの地に存在する意義は大きなものがあります。

地域貢献と大きく構えなくても、皆さんが

地域の人との交流を深めることによって、共に支え合うことを学んだり、地域における課題を見出したりしたりして、複雑に絡み合っ
て構成されている社会の現状を敏感に感じ
取り、対応していく力を養って欲しいと思
います。

また、最近では北見市の教育委員会と連携し、
小中学校の先生方の理科実験を支援するこ
とによりこの地域の子どもの理科離れを
少なくする試みにも着手しています。

皆さんも専門の教育を受けながら積極的
にこの試みに参画して、学生としてこの地
域の発展に貢献してください。特に大学院生は
専門分野における基礎学力をすでに身につ
けていますので、支援活動を充実させるた
めに、皆さんの参加を期待しています。



最後の4つ目は国際交流についてです。

北見工業大学にはこの4月から110人を超
す留学生が在籍することになり、この数は教
員あたりの留学生数では北海道内でもトッ
プクラスです。

国際交流協定を結んでいる外国の大学も7
カ国21大学あります。中国や韓国などのア
ジアの大学に加えてフィンランドの3つの大
学やポーランドの歴史あるクラクフ工業大
学なども協定を締結しており、それぞれの

大学から留学生を受け入れていますし、本学
の学生も留学しています。

本学の学生の留学は、他大学と同様に受け
入れている留学生に比べると非常に少ない
のですが、ここ数年語学研修を欧米や中国、
韓国の大学で行っており、その経験者が留学
する傾向も見られますので、これからは留学
する学生が増えていくことを期待していま
す。

就職後に海外で勤務することも当然あり
得ますので、留学生との交流を深めて異文化
を学ぶことに加え、将来を見据えてスキルア
ップをしておくことも重要です。

若いうちに海外での生活を経験すること
は、その後の人生を送るうえで大きな糧にな
りますので、経済的支援も含めて大学でも応
援しています。大きな夢を持って留学にチャ
レンジしてください。

最後に大学生生活は、
人生のなかで最も自由な時間がとれる、
人生のなかで最も教養を高められる、
人生のなかで最も信頼のおける友人に巡り
会える、
そのような環境にあります。この恵まれた環
境が将来社会人として羽ばたく上での大き
な力となります。

皆さんが北見工業大学の一員として心身
ともに健やかな学生生活を過ごされること
を心から祈って歓迎の挨拶と致します。

改めて入学おめでとうございます。

平成24年4月5日

北見工業大学長 鮎田 耕一

= 入 試 =

平成 25 年度編入学学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 25 年度編入学学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

選抜の種類	推薦入試・学力試験入試・社会人特別入試	
学 科 及 び 募 集 人 員	工学部全学科 推薦入試 10 人 学力試験入試及び社会人特別入試 若干人	
出 願 資 格	<p>推薦入試</p> <p>高等専門学校・理工系の短期大学を平成 25 年 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 25 年 9 月卒業見込みの者)</p> <p>学力試験入試</p> <p>(1) 大学を卒業した者又は平成 25 年 3 月卒業見込みの者 (2) 高等専門学校・短期大学を卒業した者又は平成 25 年度 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 25 年 9 月卒業見込みの者) (3) 修業年限 4 年以上の他の大学に 2 年以上在学している者又は在学した者 ただし、一つの大学に 2 年以上(休学期間を除く。)在学し、62 単位以上修得した者又は平成 25 年 3 月までに修得見込みの者(平成 25 年 3 月までに 2 年間以上在学となる者を含む。)等</p> <p>社会人特別入試</p> <p>入学時において企業等に正規の職員として 2 年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当するもの</p> <p>(1) 理工系の高等専門学校を卒業した者 (2) 理工系の短期大学を卒業した者 (3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得し退学した者</p>	
出 願 期 間	推薦入試・社会人特別入試	5 月 7 日 (月) ~ 5 月 11 日 (金)
	学力試験による入試	6 月 7 日 (木) ~ 6 月 13 日 (水)
試 験 日	推薦入試・社会人特別入試	5 月 30 日 (水) (面接)
	学力試験入試	7 月 4 日 (水)
合 格 発 表	推薦入試・社会人特別入試	6 月 6 日 (水)
	学力試験入試	7 月 11 日 (水)

平成 25 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 25 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。また、平成 24 年度大学院秋季入学の学生募集要項も同時に公表され、平成 25 年度入試の第 1 回募集と同一日程で実施されます。

平成 25 年度大学院工学研究科博士課程

	博士前期課程	博士後期課程																																									
専 攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻																																									
選 抜 の 種 類	一般入試（学力試験入試・推薦入試） 学部 3 年次学生対象入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 高等専門学校専攻科生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試																																									
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2" style="text-align: center;">第 1 回</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">学力試験</th> <th style="text-align: center;">推薦入試</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械工学専攻</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">各専攻とも若干人</td> </tr> <tr> <td>社会環境工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>環境化学専攻</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td>マテリアル工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">56</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・学部 3 年次学生対象入試 各専攻とも若干人 ・社会人特別入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人 ・高等専門学校専攻科生特別入試 各専攻とも若干人 		第 1 回		第 2 回	学力試験	推薦入試	機械工学専攻	11	11	各専攻とも若干人	社会環境工学専攻	10	10	電気電子工学専攻	10	10	情報システム工学専攻	8	8	環境化学専攻	9	9	マテリアル工学専攻	8	8	計	56	56	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産基盤工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">若干人 各専攻とも</td> </tr> <tr> <td>寒冷地・環境・エネルギー工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>医療工学専攻</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生入試 各専攻とも若干人 		第 1 回	第 2 回	生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	医療工学専攻	2	計	8	
	第 1 回		第 2 回																																								
	学力試験	推薦入試																																									
機械工学専攻	11	11	各専攻とも若干人																																								
社会環境工学専攻	10	10																																									
電気電子工学専攻	10	10																																									
情報システム工学専攻	8	8																																									
環境化学専攻	9	9																																									
マテリアル工学専攻	8	8																																									
計	56	56																																									
	第 1 回	第 2 回																																									
生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも																																									
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3																																										
医療工学専攻	2																																										
計	8																																										
出願資格	大学を卒業した者又は平成 25 年 3 月までに卒業見込みの者 等	修士の学位を有する者又は平成 25 年 3 月までに卒業見込みの者 等																																									
出願期間	第 1 回募集 平成 24 年 6 月 11 日（月）～6 月 28 日（木） （推薦入試の 願を希望する者 平成 24 年 6 月 11 日（月）～6 月 15 日（金）） （出願資格の事前審査 平成 24 年 5 月 21 日（月）～5 月 25 日（金）） 第 2 回募集 平成 25 年 1 月 21 日（月）～1 月 25 日（金） （出願資格の事前審査 平成 24 年 11 月 26 日（月）～12 月 3 日（金））																																										

試験日	第1回募集 学力試験 学力検査 平成24年8月27日(月) 面接試験 平成24年8月28日(火) 推薦入試 面接試験 平成24年7月2日(月) 第2回募集 学力試験 平成25年2月12日(火) 面接試験 平成25年2月13日(水)	第1回募集 面接試験 平成24年8月29日(水) 第2回募集 面接試験 平成25年2月12日(火)
合格発表	第1回募集 学力試験・推薦入試 平成24年9月12日(水) ※推薦入試選考結果通知 平成24年7月11日(水) 第2回募集 平成25年2月20日(水)	第1回募集 平成24年9月12日(水) 第2回募集 平成25年2月20日(水)

平成24年度大学院工学研究科博士課程（秋季入学）

	博士前期課程	博士後期課程
専攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻
選抜の種類	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 各専攻とも若干人 ・社会人特別入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 各専攻とも若干人 ・社会人入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生入試 各専攻とも若干人
出願資格	大学を卒業した者又は平成24年9月までに卒業見込みの者 等	修士の学位を有する者又は平成24年9月までに卒業見込みの者 等
出願期間	平成24年6月11日(月)～6月28日(木) (出願資格の事前審査 平成24年5月21日(月)～5月25日(金))	
試験日	学力検査 平成24年8月27日(月) 面接試験 平成24年8月28日(火)	面接試験 平成24年8月29日(水)
合格発表	平成24年9月12日(水)	平成24年9月12日(水)

= 研究助成 =

平成24年度共同研究の受入状況

平成24年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会連携 推進センター	教授	有田 敏彦	ポリマーがいし塩分付着特性に関する研究	東北電力株式会社 研究開発センター
電気電子工学科	教授	柏 達也	大規模FDTD法を使った電磁界解析技術の構築に関する共同研究	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター
機器分析センター	講師	大津 直史	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	独立行政法人物質・材料研究機構
社会環境工学科	教授	川村 彰	STAMPER IIを活用した簡易IRI測定技術とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの開発	大成ロテック株式会社
社会連携 推進センター	特任教授	大島 俊之	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	網走測量設計協会
社会環境工学科	教授	川村 彰	改良型STAMPER IIとFWDを組み合わせた”舗装の評価システム”の実用化に関する研究	ティーアール・コンサルタント株式会社
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	裏面排水材の透水性能に与える鉄バクテリアの影響	日特建設株式会社
社会環境工学科	教授	高橋 清	住民・企業・行政の協働を前提とした災害支援に関する研究	北見土木技術協会
社会環境工学科	教授	中山 恵介	閉鎖性水域における環境影響評価	国土技術政策総合研究所
情報システム工学科	准教授	曾根 宏靖	ファイバレーザによる超広帯域光の発生に関する研究	独立行政法人産業技術総合研究所/茨城大学
社会環境工学科	教授	中山 恵介	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
マテリアル工学科	准教授	村田 美樹	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	北見市新エネルギー・省エネルギービジョン改訂に係る調査・研究	北見市
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	中規模河床形態の形成過程、形状特性並びに水理的多様性に関する研究	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
マテリアル工学科	助教	浪越 毅	高屈折率材料用含硫黄ポリビニルエーテルおよびポリビニルスルフィドの合成	丸善石油化学株式会社
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市
バイオ環境化学科	教授	鈴木 勉	木質系材料の触媒炭化による電磁波遮蔽用炭素の製造	協同組合ラテスト
社会連携 推進センター	教授	有田 敏彦	架空地線の着氷抑制・落氷低減に関する基礎研究	中部電力株式会社 電力技術研究所
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市企業局
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	多糖類を利用した機能性素材の開発	花王株式会社

平成24年度累計21件

平成24年度受託研究の受入状況

平成24年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費 円
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	氷況観測・予測、及び油拡散予測技術の研究	国立大学法人東京大学	0
マテリアル工学科	教授	阿部 良夫	金属水酸化物と水和酸化物を複合化したスマートウィンドウ用電極材料の開発	独立行政法人科学技術振興機構 産学連携展開部	1,000,000
バイオ環境化学科	教授	鈴木 勉	量子ドットを利用したスーパーキャパシタ用木質炭素材料の開発	独立行政法人科学技術振興機構 産学連携展開部	894,000

平成24年度累計3件

平成24年度奨学寄附金受入状況

平成24年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	「サロマ湖河口の大規模な潮流に着目した潮流発電システムの運用シミュレーション」研究のため	公益財団法人東電記念財団	1,000,000
機械工学科	助教	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人 日本VOC測定協会	1,000,000
機械工学科	教授	尾崎 義治	光工学研究に対する助成	有限会社アルファバグ	250,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	工学研究のため	有限会社シー・エス・プランニング	40,000
電気電子工学科	教授	平山 浩一	マイクロ派帯回路の研究	株式会社関東電子応用開発	200,000
社会環境工学科	教授	川村 彰	工学研究の助成	株式会社寿エンジニアリング	150,000
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツ設計に関わる工学研究のため	株式会社レクザム	100,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	塩水遡上に関する研究遂行のため	株式会社福田水文センター	100,000
	学長	鮎田 耕一	父母懇談会及び就職支援等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	2,000,000

平成24年度累計9件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○文部科学省発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
24. 4. 1	国立大学法人北見工業大学監事	前 晋爾	国立大学法人北見工業大学監事 (任期：平成26年3月31日まで)
〃	国立大学法人北見工業大学監事	高松 謹也	国立大学法人北見工業大学監事 (任期：平成26年3月31日まで)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
24. 3. 30	事務局長	加藤 幹彦	辞職（文部科学省へ転出）
24. 3. 31	工学部教授	大島 俊之	定年退職
〃	工学部教授	前田 寛之	定年退職
〃	工学部教授	柴田 孝次	定年退職
〃	工学部准教授	伊藤 純一	定年退職
〃	研究協力課副課長	村井 伸夫	定年退職
〃	工学部講師	寄高 秀洋	任期満了退職
〃	工学部講師	荒谷 陽子	任期満了退職
〃	工学部助教	鰻目 淑範	任期満了退職
〃	工学部助教	酒井 考和	任期満了退職
〃	工学部助教	多田 清志	任期満了退職
〃	工学部助教	船木 稔	任期満了退職
〃	工学部准教授	福士 航	辞職
〃	工学部准教授	水本 正晴	辞職（北陸先端科学技術大学院大学へ転出）
〃	工学部助教	佐藤 慎悟	辞職（室蘭工業大学へ転出）
〃	財務課長	高橋 秀真	辞職（北海道大学へ転出）

〃	学生支援課長	森實 利一	辞職（室蘭工業大学へ転出）
〃	財務課係長	後藤 普	辞職（北海道大学へ転出）
〃	施設課主任	立花 智亜喜	辞職
24.4.1	理事・副学長	高橋 信夫	理事・副学長、研究推進機構長及び 基盤研究推進センター長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	理事・副学長	田牧 純一	理事・副学長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	理事	小野 薫	理事 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	田村 淳二	副学長及び寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 主任 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	吉田 孝	副学長、図書館長及び医療工学専攻主任 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	山下 聡	学長補佐 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	庄子 仁	基盤研究推進本部長及び環境・エネルギー 研究推進センター長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	川村 彰	産学官連携推進本部長及び社会連携推進セ ンター長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	羽二生 博之	応用研究推進センター長及び生産基盤工学 専攻主任 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	鞘師 守	知的財産センター長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	堀内 淳一	研究支援本部長及び機器分析センター長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	富士 明良	ものづくりセンター長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	榮坂 俊雄	情報処理センター長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	本田 明	保健管理センター所長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部准教授	許斐 ナタリー	国際交流センター長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	亀丸 俊一	技術部長 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	山田 貴延	機械工学科長及び機械工学専攻主任 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	渡邊 康玄	社会環境工学科長及び社会環境工学専攻主 任 （任期：平成26年3月31日まで）
〃	工学部教授	谷本 洋	電気電子工学科長及び電気電子工学専攻主 任 （任期：平成26年3月31日まで）

〃	工学部教授	山田 浩嗣	情報システム工学科長及び情報システム工学専攻主任 (任期：平成26年3月31日まで)
〃	工学部教授	中谷 久之	バイオ環境化学科長及びバイオ環境化学専攻主任 (任期：平成26年3月31日まで)
〃	工学部教授	渡邊 眞次	マテリアル工学科長及びマテリアル工学専攻主任 (任期：平成26年3月31日まで)
〃	工学部教授	照井 日出喜	共通講座主任及び各専攻共通主任 (任期：平成26年3月31日まで)
〃	工学部助教	井上 真澄	工学部准教授
〃	工学部助教	白川 龍生	工学部准教授
〃	工学部助教	中村 大	工学部准教授
〃	(新規採用)	吉澤 真吾	工学部准教授
〃	(新規採用)	鈴木 育男	工学部准教授
〃	工学部助教	曾根 宏靖	工学部准教授
〃	(新規採用)	笹川 渉	工学部准教授
〃	(新規採用)	三浦 克宜	工学部講師
〃	(新規採用)	梅村 敦史	工学部助教
〃	(新規採用)	佐藤 勝	工学部助教
〃	(新規採用)	岩館 健司	工学部助教
〃	(新規採用)	宮崎 健輔	工学部助教
〃	千葉大学企画総務部長	小椋 史朗	事務局長
〃	小樽商科大学入試課長	内藤 真一	企画広報課長
〃	室蘭工業大学財務グループマネージャー	吉田 茂	財務課長
〃	企画広報課長	小野 勝巳	学生支援課長
〃	学生支援課副課長	小野 恵子	研究協力課副課長 (係長兼務)
〃	学生支援課係長	渡部 孝弘	学生支援課副課長 (係長兼務)
〃	財務課専門職員	森本 典宏	財務課係長

〃	学生支援課主任	木村 加寿美	学生支援課係長
〃	情報図書課主任	尾河 康典	財務課主任
〃	財務課事務職員	三宮 智仁	財務課主任
〃	学生支援課事務職員	西尾 貴則	学生支援課主任
〃	情報図書課事務職員	白鳥 和枝	情報図書課主任
〃	施設課事務職員	後藤 将大	総務課事務職員（文部科学省へ研修）
〃	文部科学省（研修生）	中村 圭吾	企画広報課事務職員
〃	（新規採用）	原田 壮志	施設課事務職員
〃	企画広報課事務職員	菊池 翔	情報図書課事務職員
〃	技術部大学運営支援室情報処理支援グループ情報処理係技術員	折原 淳	技術部大学運営支援室情報処理支援グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室情報処理支援グループ開発運用係技術員	熊本 慎也	技術部大学運営支援室情報処理支援グループ情報処理係技術員
24.5.1	（新規採用）	末繁 美和	工学部特任講師
〃	（新規採用）	大野 庄也	施設課主任

各種委員会

(総務課)

平成24年4月1日現在

	役員会	経営協議会	教育研究評議会	学科長・講座主任	専攻主任
議長	学 長 鮎 田 耕 一	学 長 鮎 田 耕 一	学 長 鮎 田 耕 一		
委員	理 事 高 橋 信 夫	理 事 高 橋 信 夫	理 事 高 橋 信 夫	機械工学科 山 田 貴 延	博士前期課程
	理 事 田 牧 純 一	理 事 田 牧 純 一	理 事 田 牧 純 一	社会環境工学科 渡 邊 康 玄	機械工学専攻 山 田 貴 延
	理 事 小 野 薫	理 事 小 野 薫	理 事 小 野 薫	電気電子工学科 谷 本 洋	社会環境工学専攻 渡 邊 康 玄
		副 学 長 田 村 淳 二	副 学 長 田 村 淳 二	情報システム工学科 山 田 浩 嗣	電気電子工学専攻 谷 本 洋
		副 学 長 吉 田 孝	副 学 長 吉 田 孝	バイオ環境化学科 中 谷 久 之	情報システム工学専攻 山 田 浩 嗣
		事務局 長 小 椋 史 朗	機械工学科 長 山 田 貴 延	マテリアル工学科 渡 邊 眞 次	バイオ環境化学専攻 中 谷 久 之
		越 膳 良 臣	社会環境工学科 長 渡 邊 康 玄	共 通 講 座 照 井 日 出 喜	マテリアル工学専攻 渡 邊 眞 次
		佐 藤 正 行	電気電子工学科 長 谷 本 洋		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
		永 田 正 記	情報システム工学科 長 山 田 浩 嗣		
		橋 口 一 徳	バイオ環境化学科 長 中 谷 久 之		
		長 谷 川 淳	マテリアル工学科 長 渡 邊 眞 次		
		三 上 隆	共 通 講 座 照 井 日 出 喜		博士後期課程
		和 田 修 一	情報処理センター 長 榮 坂 俊 雄		生産基盤工学専攻 羽 二 生 博 之
			国際交流センター 長 許 斐 ナタリー		寒 冷 地 ・ 環 境 ・ 田 村 淳 二 エ ネ ル ギ ー 工 学 専 攻
			技 術 部 長 亀 丸 俊 一		医療工学専攻 吉 田 孝
			事 務 局 長 小 椋 史 朗		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
			基盤研究推進本部長 庄 子 仁		
			産学官連携推進本部長 川 村 彰		
			研究支援本部長 堀 内 淳 一		博士後期課程
			機 械 工 学 科 鈴 木 聡 一 郎		(平成21年度以前入学者)
			社会環境工学科 山 下 聡		システム工学専攻 田 村 淳 二
			電気電子工学科 谷 藤 忠 敏		物質工学専攻 吉 田 孝
			情報システム工学科 鈴 木 正 清		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
			バイオ環境化学科 星 雅 之		
			マテリアル工学科 平 賀 啓 二 郎		
			共 通 講 座 齋 藤 正 美		
任期	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31

	図書館委員会	国際交流委員会	大学評価委員会	広報委員会	安全衛生委員会
委員長	図書館長 吉田 孝	副学長 田村 淳二	理事 田牧 純一	副学長 田村 淳二	理事 高橋 信夫
委員	機械工学科 ウラシャリフ	国際交流センター長 許斐 ナタリー	機械工学科 佐々木 正史	機械工学科 林田 和宏	技術部 橋本 晴美
	社会環境工学科 堀 彰	機械工学科 大橋 鉄也	社会環境工学科 渡邊 康玄	社会環境工学科 三上 修一	〃 白川 和哉
	電気電子工学科 谷藤 忠敏	社会環境工学科 高橋 修平	電気電子工学科 谷本 洋	電気電子工学科 橋本 泰成	健康管理センター所長 本田 明
	情報システム工学科 鈴木 育男	電気電子工学科 小原 伸哉	情報システム工学科 山田 浩嗣	情報システム工学科 早川 吉彦	バイオ環境化学科 三浦 宏一
	バイオ環境化学科 服部 和幸	情報システム工学科 鈴木 範男	バイオ環境化学科 堀内 淳一	バイオ環境化学科 兼清 泰正	マテリアル工学科 伊藤 英信
	マテリアル工学科 村田 美樹	バイオ環境化学科 新井 博文	マテリアル工学科 阿部 良夫	マテリアル工学科 大野 智也	社会連携推進センター 有田 敏彦
	共通講座 戸澤 隆広	マテリアル工学科 松田 剛	共通講座 照井 日出喜	共通講座 鳴島 史之	機械工学科 富士 明良
		共通講座 ボゼック・クリストファー	事務局長 小椋 史朗	社会連携推進センター 鞘師 守	情報システム工学科 今井 正人
		事務局長 小椋 史朗		事務局長 小椋 史朗	マテリアル工学科 射水 雄三
					技術部 平松 雅宏
					〃 山田 忠永
					情報図書課 船木 敦子
任期	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31	～ 25. 3.31	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31

	施設環境委員会	情報システム運営委員会	発明審査委員会	遺伝子組換え実験等安全管理委員会	環境安全センター
委員長	副学長 高橋 信夫	副学長 吉田 孝	副学長 吉田 孝	副学長 吉田 孝	副学長 高橋 信夫
委員	環境・エネルギー研究推進センター長 庄子 仁	情報処理センター長 榮坂 俊雄	知的財産センター長 鞘師 守	バイオ環境化学科 堀内 淳一	施設課長 荒谷 正樹
	社会連携推進センター長 川村 彰	情報処理センター 升井 洋志	社会連携推進センター長 川村 彰	〃 佐藤 利次	社会環境工学科 白川 龍生
	応用研究推進センター長 羽二生 博之	〃 三浦 克宜	応用研究推進センター長 羽二生 博之	保健管理センター所長 本田 明	情報システム工学科 亀丸 俊一
	機器分析センター長 堀内 淳一	機械工学科 松村 昌典		研究協力課長 高橋 敏	バイオ環境化学科 小俣 雅嗣
	機械工学科 柴野 純一	社会環境工学科 中尾 隆志			保健管理センター所長 本田 明
	環境・エネルギー研究推進センター 八久保 晶弘	電気電子工学科 川村 武			技術部 白川 和哉
	電気電子工学科 武山 眞弓	情報システム工学科 曾根 宏靖			〃 須澤 啓一
	情報システム工学科 後藤 文太郎	バイオ環境化学科 三浦 宏一			〃 橋本 晴美
	バイオ環境化学科 青山 政和	マテリアル工学科 宇都 正幸			総務課 山本 渉
	マテリアル工学科 射水 雄三	共通講座 阿曾 正浩			施設課 早瀬 敦
	共通講座 笹川 渉	事務局長 小椋 史朗			〃 松沼 拓夫
	事務局長 小椋 史朗	教育IT支援室長 三波 篤郎			〃 原田 壮志
					学生支援課 小野 勝巳
					〃 本庄 哲朗
					〃 長谷川 麻美
					保健管理センター 辻 由美子
任期	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31		～ 25. 3.31	～ 26. 3.31

	学生支援センター	学生よろず相談室	就職支援室	教育IT支援室	教育改善推進センター
センター長・室長	副学長 田村 淳二	マテリアル工学科 射水 雄三	バイオ環境化学科 新井 博文	情報システム工学科 三波 篤郎	副学長 田牧 純一
副センター長・室長補佐・副室長	学生支援課長 小野 勝巳		学生支援課副課長 渡部 孝弘	電気電子工学科 平山 浩一	社会環境工学科 堀 彰
兼任教員・センター員・室員	学生よろず相談室長 射水 雄三	機械工学科 渡辺 美知子	機械工学科 佐藤 満弘	マテリアル工学科 射水 雄三	
	就職支援室長 新井 博文	社会環境工学科 伊藤 陽司	社会環境工学科 中尾 隆志	情報処理センター 升井 洋志	機械工学科 三戸 陽一
	教育IT支援室長 三波 篤郎	〃 舘山 一孝	電気電子工学科 吉田 公策	〃 三浦 克宜	社会環境工学科 井上 真澄
	就職支援室室長補佐 渡部 孝弘	電気電子工学科 高橋 理音	情報システム工学科 原田 建治	技術部 宇野 珠実	電気電子工学科 平山 浩一
	教育IT支援室副室長 平山 浩一	情報システム工学科 鈴木 範男	マテリアル工学科 宇都 正幸	〃 熊本 慎也	情報システム工学科 前田 康成
		〃 中垣 淳		学生支援課長 小野 勝巳	〃 鈴木 範男
		バイオ環境化学科 菅野 亨		学生支援課副課長 斉藤 仁史	バイオ環境化学科 佐藤 利次
		共通講座 柳 等			マテリアル工学科 南 尚嗣
		環境・エネルギー研究推進センター 八久保 晶弘			共通講座 山田 健二
		保健管理センター所長 本田 明			〃 三枝 和彦
		学生支援課長 小野 勝巳			
		学生支援課副課長 渡部 孝弘			
任期		～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31

	入試企画センター	不正防止対策室	マネジメント工学コース運営委員会
センター長・ 室長	副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 吉 田 孝	理 事 高 橋 信 夫
副センター長・副 室長	社会環境工学科 山 下 聡	財 務 課 長 吉 田 茂	副 学 長 田 牧 純 一
		研究協力課長 高 橋 敏	
兼任教員・ 室員	機 械 工 学 科 鈴 木 聡 一 郎	環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 研 究 推 進 セ ン タ ー 長 庄 子 仁	知的財産センター 鞘 師 守
	電 気 電 子 工 学 科 平 山 浩 一	機 械 工 学 科 佐 々 木 正 史	機 械 工 学 科 富 士 明 良
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 榮 坂 俊 雄	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 榮 坂 俊 雄	社 会 環 境 工 学 科 白 川 龍 生
	バ イ オ 環 境 化 学 科 星 雅 之	マ テ リ ア ル 工 学 科 阿 部 良 夫	電 気 電 子 工 学 科 武 山 眞 弓
	マ テ リ ア ル 工 学 科 阿 部 良 夫		情 報 シ ス テ ム 工 学 科 早 川 吉 彦
	共 通 講 座 柳 等		バ イ オ 環 境 化 学 科 岡 崎 文 保
			マ テ リ ア ル 工 学 科 村 田 美 樹
			共 通 講 座 山 田 健 二
任 期	～ 25. 3. 31		

	クラス担任（1年）	クラス担任（2年）	クラス担任（3年）	クラス担任（4年）	就職担当教員
	機械・社会環境系	機械工学科 鈴木 聡一郎	機械工学科 佐々木 正 史	機械工学科 山 田 貴 延	機械工学科 鈴木 聡一郎
	A 主担任 三 枝 和 彦	ウラ シャリフ	宮 越 勝 美	鈴木 聡一郎	宮 越 勝 美
	// 副担任 大 橋 鉄 也	社会環境工学科 後 藤 隆 司	社会環境工学科 三 上 修 一	社会環境工学科 中 尾 隆 志	社会環境工学科 高 橋 清
	B 主担任 戸 澤 隆 広	// 駒 井 克 昭	// 亀 田 貴 雄	// 高 橋 清	// 中 尾 隆 志
	// 副担任 佐 藤 満 弘	電気電子工学科 植 田 孝 夫	電気電子工学科 橋 本 泰 成	電気電子工学科 吉 田 公 策	電気電子工学科 吉 田 公 策
	C 主担任 笹 川 渉	// 武 山 眞 弓	// 平 山 浩 一	// 柏 達 也	// 柏 達 也
	// 副担任 舘 山 一 孝	情報システム工学科 原 田 康 浩	情報システム工学科 原 田 建 治	情報システム工学科 榊 井 文 人	情報システム工学科 三 波 篤 郎
	D 主担任 芳 賀 和 敏	// 鈴 木 範 男	// 今 井 正 人	// 渡 辺 文 彦	// 榊 井 文 人
	// 副担任 川 口 貴 之	バイオ環境化学科 服 部 和 幸	バイオ環境化学科 新 井 博 文	バイオ環境化学科 中 谷 久 之	バイオ環境化学科 中 谷 久 之
	情報電気エレクトロニクス系	マテリアル工学科 村 田 美 樹	マテリアル工学科 宇 都 正 幸	マテリアル工学科 渡 邊 眞 次	// 新 井 博 文
	A 主担任 阿 曾 正 浩				マテリアル工学科 渡 邊 眞 次
	// 副担任 高 橋 理 音				
	B 主担任 齋 藤 正 美				
	// 副担任 安 井 崇				
	C 主担任 伊 関 敏 之				
	// 副担任 河 野 正 晴				
	D 主担任 鳴 島 史 之				
	// 副担任 前 田 康 成				
	バイオ環境・マテリアル系				
	A 主担任 柳 等				
	// 副担任 三 浦 宏 一				
	B 主担任 照 井 日 出 喜				
	// 副担任 大 野 智 也				
	C 主担任 山 田 健 二				
	// 副担任 大 野 智 也				
任 期	～ 25. 3.31	～ 25. 3.31	～ 25. 3.31	～ 25. 3.31	～ 25. 3.31

= 受賞 =

社会環境工学科、中村大准教授が資源・素材学会奨励賞を受賞

(社会環境工学科)

このたび、社会環境工学科・中村大准教授(受賞時、助教)が、一般社団法人資源・素材学会より第37回資源・素材学会「奨励賞」を授与されました。

資源・素材学会は1885年(明治18年)に「日本鑛業會」として創立された工学系として日本最古の学会の一つです。創立当時は鉱山系企業を中心に、探査・採鉱・選鉱・製錬の技術的サポートを行う団体として活動を行っていましたが、近年では、特に資源循環型社会の構築を目指して、リサイクル工学・廃棄物処分工学の中心的役割を担っています。

資源・素材学会「奨励賞」は、満40歳未満の学会員を対象に、その研究業績が独創性および将来性に富むと認められた者に授与されます。原則として資源・素材学会誌に掲載された研究発表を参考にして候補者が選考されます。

対象となった研究は、「岩石と土の凍上特性の差異に関する実験的研究」です。北海道のような寒冷地では、山間部や海岸沿いのトンネルや道路などの土木構造物において、寒冷気候に起因する多くの問題が生じます。岩石、岩盤の凍上現象もこのような問題の一つで、近年、岩石の凍上性を把握することの重要性が高まっています。この研究は、報告例の少ない岩石の凍上性を明らかにしたものであり、さらに、これまでに知られていなかった岩石と土の凍上特性の違いについて、実験的に検証したものです。本研究で提示された研究成果は、今後の岩石、岩盤の凍上研究に対して有益な情報を与えるものであり、この分野の発展に少なからず貢献するものです。

以上の研究が、資源・素材学会「奨励賞」に該当する実績として評価され、今回の受賞に至りました。



大学院博士前期課程修了生、武知孝洋君が

砥粒加工学会賞論文賞を受賞

(機械システム工学専攻)

平成 22 年度博士前期課程機械システム工学専攻修了生、武知孝洋君が平成 23 年度砥粒加工学会賞論文賞を受賞しました。

砥粒加工学会賞論文賞は、砥粒加工学会誌に過去 1 年間に掲載された論文を対象に、内容が優秀と認められるものに対して砥粒加工およびその関連分野に関する学術を奨励し、砥粒加工学の発展を促進することを目的として贈賞されるものです。

授賞式は平成 24 年 3 月 2 日に開催された公益社団法人砥粒加工学会平成 24 年度通常総会（東京、東京都立産業技術高等専門学校）で行われ、著者全員（武知孝洋、田牧純一、久保明彦、ウラ シャリフ）に対して賞状と盾が授与されました。

受賞対象論文は、砥粒加工学会誌 55 巻 2

号（2011）に掲載された「光学ガラスの延性モード固定砥粒加工における弾性・塑性挙動」です。

本研究は、ガラスの延性モード固定砥粒加工における弾性・塑性挙動を解明することを目的として石英ガラスのナノインデンテーションと単刃フライカットによる実験的解析を行ったものであり、武知孝洋君は卒業研究および修士論文学位研究と 3 年にわたってこの研究に従事しました。その成果として、延性モード変形下における弾性変形（回復）、弾性切り残し、塑性変形、盛り上がり及び切れ刃形状の影響を詳細に明らかにしました。この成果が今後の砥粒加工の発展に貢献した研究として認められ、受賞に至りました。



社会環境工学科、高橋修平教授が北海道新聞エコ大賞を受賞

(社会環境工学科)

この度、北海道新聞社から北見工業大学雪氷研究推進センターとして、第2回北海道新聞エコ大賞・団体の部・大賞を受賞しました。受賞の対象は「牧草を断熱材として利用した冷熱利用実験」の研究です。

この研究は、北海道の冬期寒冷気候を生かし、北海道で入手が容易な牧草を断熱材とした積雪保存による冷熱利

用を試みるものであり、一般農家等が利用しやすい方法として、牧草を断熱材として使用して作物保存や冷房等に応用する方法を研究したものです。社会連携推進センター（旧地域共同研究センター）前にある緑の小山がその雪山です（図1、図2）。緑の牧草の下に雪が積まれ、その中に貯蔵施設があります。



図1 貯蔵用の雪山造成作業風景(牧草敷設作業中)

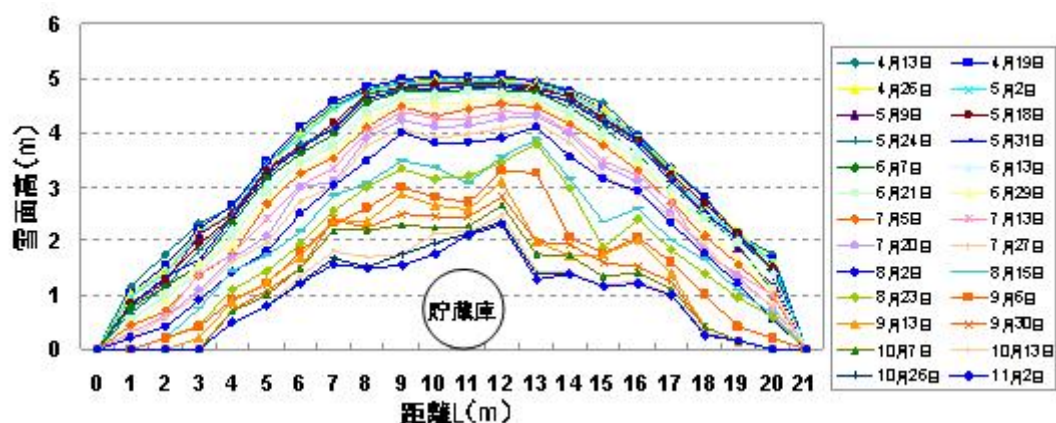


図2 雪山断面の変化(2011年) 初めは5mの高さの雪山が11月には2m程度になった。

2008年の試験では牧草ロールのまま
と、平坦に敷き詰めた場合を較べたところ、
ロールでは内部が70℃に達する
高温になるのに対し、30～50cmに牧草
を敷き詰めた方が断熱効果が高いこと
がわかりました。

2009年は北見で4mの積雪を保存し、
各種貯蔵方法と冷氣取り出し法等の各種
実験を行い、2010年からは、雪山の
高さが5mだと冬まで雪が残ることから、
春に雪を再度積み上げることにより、
足かけ3年、現在に到るまで、連続的
に雪を残しました。貯蔵室内ではずっと
0℃を保っています(図3)。貯蔵室内には
タマネギ、ジャガイモ、米

を貯蔵しており、高付加価値実験の一つ
として春先に取り込んだ桜の枝を夏に
取り出すことにより、時ならぬ夏に
花を咲かせたりもしました。

このような研究に対し、北海道新聞
からエコ大賞に応募しませんかという
話があり、今回の受賞につながりました
(図4)。東日本大震災の福島原発事故
による電力不足問題以来、自然エネルギー
の必要性が今まで以上に見直されている
のも受賞理由の一つだったようです。
大学発のこのような研究成果が、北海道
のあちこちで利用されれば大変うれしい
ことです。

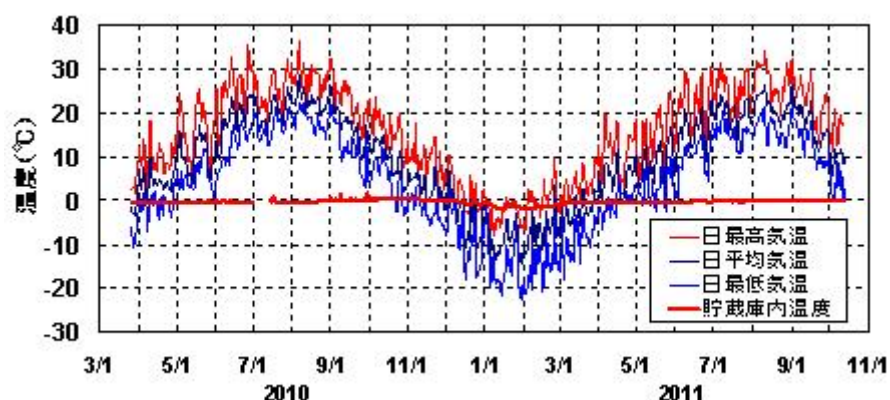


図3 貯蔵庫内部温度および日最高・平均・最低気温
外気温が30℃を超える温度になっても貯蔵庫内は通年、ほぼ0℃を保った。



図4 北海道新聞エコ大賞賞状

文部科学省「情報ひろば」に出展

(企画広報課)

平成 24 年 1 月から、国立大学等の優れた研究成果を広く国民に広報することを目的として、文部科学省「情報ひろば」において、本学の特色ある研究を展示しているところですが、4 月 11 日から展示内容を更新しました。

第 2 ステージは、「寒冷地工学から地球規模の環境観測」と題して、マテリアル工学科南尚嗣准教授による摩周湖の水質調査による大気汚染モニタリングの研究成果と、社会環境工学科の館山一孝准教授による南極氷床深層掘削で採取した氷の分析による地球の気候変動機構の解明に貢献した掘削

機の研究開発及び海水観測に威力を発揮する氷厚計の研究開発等について、展示物、映像、パネル展示を通して分かりやすく紹介しております。

また、1 月から 3 月末までの予定で「寒冷地工学から冬季スポーツへの挑戦 ～日本選手が世界の頂点に立つために～」と題して展示していたスキーブーツの研究・開発及びカーリング用スウィーピングブラシの研究も、規模を縮小して引き続き展示することになり、より一層の広報効果が期待されます。



国立大学図書館協会北海道地区協会総会を開催

(情報図書課)

4月20日(金)、平成24年度(第44回)国立大学図書館協会北海道地区協会総会が、本学において開催されました。

北海道内の国立7大学から18人が出席し、当番館である本学鮎田耕一学長の挨拶及び吉田孝図書館長の開会の挨拶に引き続き、各大学から事前に提案された議事について協議されました。

協議事項では、「大学図書館の新たな取

り組みの状況について」「図書館運営に関する利用者のニーズの収集方法について」「小規模大学図書館の連携について」等を中心に、学習支援、教育支援及び研究支援に対する図書館の役割等について、各大学の取り組み状況が報告されました。また、今後の課題として図書館間の連携に向けて活発な意見交換が行われました。



挨拶する鮎田学長



総会の様子

社会連携推進センター推進協議会の総会を開催

(社会連携推進センター)

北見工業大学社会連携推進センター推進協議会の総会が、4月23日（月）、本学において開催されました。

本協議会の目的は、本学の社会連携推進センター（CRC、旧・地域共同研究センター）とオホーツク地域の行政・民間機関との共同研究、研究交流、技術の指導・教育・開発などを推進することにあります。北見市の呼びかけに応じ、地域の産業界が中心となり平成5年3月に設立したCRCの支援組織です。毎年本協議会から、CRCが地域に貢献していくための貴重な活動資金をご寄附いただいています。

総会には本協議会会長の永田正記北見商工会議所会頭をはじめ地域産業界から委員の方々が、また種々公組織から顧問の方々、

本学からはオブザーバとして研究推進機構長の高橋信夫理事・副学長をはじめCRC長の川村彰産学官連携推進本部長らが出席し、平成23年度の活動、平成24年度の活動計画などが審議されました。CRCは本年度、設立20周年を迎えます。本学では、この機をとらえ地域の皆様とこれまでの活動を振り返るとともに今後の活動の意義について議論し、将来に向けたCRCの存在価値を共有化するための記念行事を計画しており、本協議会からもそれらの活動をご支援いただくことが確認されました。

本学、社会連携推進センターとしても、将来にわたり地域からのご支援・ご期待にしっかりと応えていくべく決意を新たにしました総会でした。



挨拶をされる永田協議会会長



協議会へのお礼を述べる高橋理事・副学長

平成 24 年度構内美化作業の開始

(施 設 課)

本学で毎年恒例となっている「構内美化作業」が5月14日(月)から始まりました。

この取組みは、10月中旬まで毎月2回(夏季休業期間を除く)昼休みの時間帯を利用し、学生と教職員とが協力して構内及び沿道の清掃活動を行うもので、大学の地域貢献という側面のみならず環境マインドを持った人材育成を目指した活動です。

前々日には雪が積もるといふ、気候が不安定な時期でしたが、当日はすっきりとした青空が広がる構内美化作業にはうってつけの日となり、鮎田耕一学長の号令と北見工業大学環境保全学生委員会(KITeco)によるゴミの分別の説明の後に、約100名の参加者はそれぞれ所定の場所を廻り、ゴミ

拾いを行いました。

集められたゴミは担当職員とKITecoのメンバーの指導のもと分別され、予定時間内に今年度最初の構内美化作業は終了しました。なお、今年から新たな試みとして行われたKITecoによる手書きの図を用いた説明がわかりやすかったと好評でした。また、昨年に比べてゴミが少なかったという声も聞かれ、平成5年に始まって20年目を迎えるこの事業の効果を改めて認識することができました。

本学では、今後、北見市が主催する「北見クリーン作戦」にも参加して、市民への環境美化に関する啓発活動の実施や付近公園等のゴミ拾いも行う予定です。



参加者を激励する鮎田学長



分別の説明をするKITeco



集めたゴミの分別を行う学生と職員

オホーツク「木」のフェスティバルに参画

(社会連携推進センター)

北見工業大学は、サンライフ北見をメイン会場に5月18日(金)から3日間開催された第27回2012オホーツク「木」のフェスティバルに参画しました。

本フェスティバルは、オホーツク圏が誇る木の工芸品、食器、家具からログハウス、木材まで、木に関連する製品や技術などを全国に向けアピールする展示・販売・情報発信イベントです。同時に、木のぬくもりや優しさを伝え、訪れる人に森林への関心を高めてもらう環境意識醸成の場としても大きな役割を果たしています。今年も200を超える企業・組織が参加し、5万人近い来場者が訪れる盛大な催しとなりました。

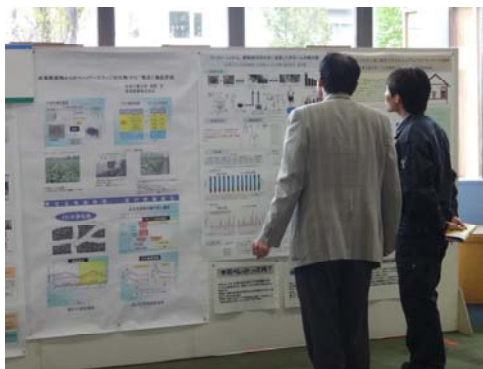
本学では地域に根ざす研究を数多く進め

ています。それらの中から、「木」に関連する炭素素材・燃料、木材利用時の分析技術などの研究をパネル展示し、地域の方々に紹介しました。また、社会連携推進センターは、地域の特色を色濃く反映したスキーブーツ、カーリング技術、南極氷床ボーリング技術、海氷・雪氷などに関する研究をパネルやDVDで紹介し、広く大学の広報を行いました。そのほか会場では、ボランティア学生による東日本大震災復興支援活動や森林保護活動の支援、フィンランド留学生による地域との交流なども行われ、本学からの幅広い参画が実現しました。

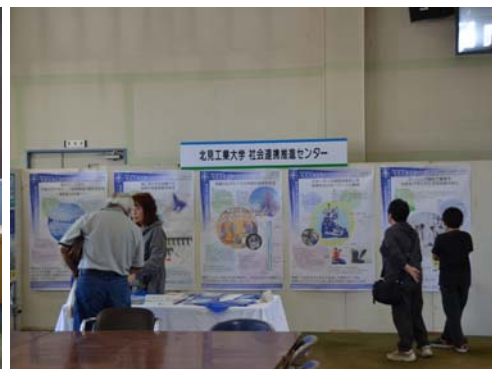
これからも、地域におけるイベントへの貢献、大学広報を積極的に進めていきます。



多くの来場者で賑わう会場



「木」に関連する研究の紹介



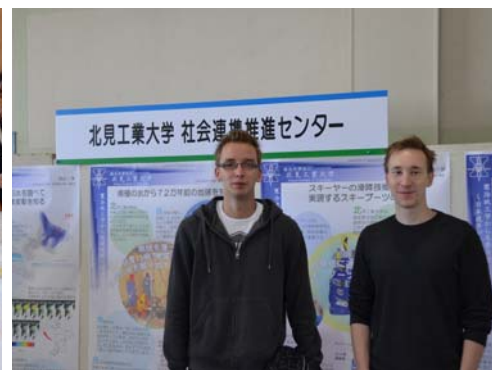
社会連携推進センターによる研究紹介



ボランティア学生による
東日本大震災復興支援活動



ボランティア学生による
森林環境保護活動の支援



地域との交流に訪れた
フィンランドからの留学生

= 日誌 =

4 月	5 月
2 日 オホーツク産学官融合センター事務局会議	1 日 休講
4 日 教授会、研究科委員会	2 日 臨時休講
5 日 入学式、新入生ガイダンス(全体)、中小企業基盤整備機構個別相談会	7 日 役員会、編入学試験(推薦)出願受付期間(~11日)、オホーツク産学官融合センター事務局会議
6 日 新入生ガイダンス(系列)	8 日 教務委員会
9 日 前期授業開始	14 日 構内美化作業開始
18 日 教育研究評議会	15 日 国際交流委員会
19 日 教務委員会、中小企業基盤整備機構個別相談会	17 日 中小企業基盤整備機構個別相談会
20 日 学生委員会、就職支援室会議、国立大学図書館協会北海道地区協会総会	21 日 学生委員会
23 日 役員会、社会連携推進センター推進協議会	23 日 教育研究評議会、社会連携推進センター運営委員会
24 日 広報委員会	25 日 シンガポールメディア視察
27 日 社会連携推進センター運営委員会	30 日 留学生歓迎会
	31 日 就職支援室会議